

管理者コンソール > ユーザー管理 > ディレクトリ-コネクタ

同期をスケジュールする

同期をスケジュールする

ディレクトリコネクタCLIを使用する組織では、デスクトップアプリの**Interval**設定を使用する代わりに、定義された間隔で自動同期をスケジュールすることができます。これは、ヘッドレス環境や、デスクトップアプリをバックグラウンドで実行できない状況で特に役立ちます。

同期をスケジュールするには、LinuxやMacOSなどのUnix系環境では**Cron**を、Windows環境では**タスクスケジューラ**を使用してください。

⇒クロン

Cronの権限

cronジョブを実行する際には、専用のDirectory Connectorユーザーとして行うことをお勧めします。まだ作成していない場合は、`bwdc` ユーザーを作成し、そのユーザーを `etc/cron.allow` リストに追加してください。これにより、Rootユーザー以外のユーザーがcronジョブを設定し、実行することができます。

続行するには、組織のAPIキー、`client_id`、および `client_secret` も必要です。これらは、Web保管庫から組織の所有者が組織の設定→私の組織に移動することで取得できます。

同期スクリプトを設定します

セッションのタイムアウトを避けるために、cronを通じて実行するシェルスクリプトを作成することをお勧めします。このスクリプトは、ログインを完了するためにあなたの `client_secret` を安全に読み取り、`bwdc sync` コマンドを実行して、出力を `bwdc.log` に書き込みます。

💡 Tip

Need to sync from multiple directories? In your sync script, you can specify multiple folders, each of which must contain a `data.json` file with your directory sync settings.

You can then specify each directory to sync by performing multiple `bwdc sync` operations, for example:

Bash

Linux

```
BITWARDENCLI_CONNECTOR_APPDATA_DIR="./instance-1" bwdc sync
```

```
BITWARDENCLI_CONNECTOR_APPDATA_DIR="./instance-2" bwdc sync
```

Windows

```
set BITWARDENCLI_CONNECTOR_APPDATA_DIR=./instance-1
```

```
bwdc sync
```

```
set BITWARDENCLI_CONNECTOR_APPDATA_DIR=./instance-2
```

```
bwdc sync
```

クロンジョブを設定してください。

許可された `bwdc` ユーザーとして：

1. ターミナルで `crontab -e` を入力してユーザーのcrontabファイルを編集するか、または `crontab -u -
え` を入力して任意のユーザーとしてcrontabファイルを編集します。
2. crontabに以下の行を追加してください:
 - 所望のコマンドを実行する時間/再発生間隔を決定するスケジューリング表現（例えば、`0 0 * *
2` は毎週火曜日の真夜中に実行するためのもの）。
 - 指定された時間/再発間隔で実行するコマンド。この場合、以前に作成した同期スクリプト（例えば、`bwdcSyncService.sh`）を実行します。

例えば、毎週月曜日の12:00に同期スクリプトを実行するには：

Bash

```
# 0 12 * * 1 bwdcSyncService.sh
```

Cronジョブスケジューリング式

希望の時間に同期をスケジュールするために、cronを使用して同期をスケジュールするには以下の参照を使用してください:

Bash

```
# | minute (0 - 59)
# | | hour (0 - 23)
# | | | day of the month (1 - 31)
# | | | | month (1 - 12)
# | | | | | day of the week (0 - 6) (Sunday to Saturday;
# | | | | | 7 is also Sunday on some systems)
# | | | | |
# | | | | |
# * * * * * <command to execute>
```

💡 Tip

If you're not yet comfortable with cron job scheduling expressions, check out <https://crontab.guru/> for help.

Please note, this is a third-party resource that is not operated or maintained by Bitwarden.

⇒タスクスケジューラ

タスクスケジューラの権限

タスクを実行する際には、専用のディレクトリコネクタユーザーとして行うことをお勧めします。まだ作成していない場合は、`bwdc` ユーザーを作成してください。

続行するには、組織のAPIキー、`client_id`、および `client_secret` も必要です。これらは、Web保管庫から組織の所有者が組織の設定→私の組織に移動することで取得できます。

同期スクリプトを設定する

セッションのタイムアウトを避けるためには、タスクスケジューラのアクションとして実行するスクリプトを作成する必要があります。このスクリプトは、ログインを完了するためにあなたの `client_secret` を安全に読み取り、`bwdc` `sync` コマンドを実行して出力を `bwdc.log` に書き込みます。

💡 Tip

Need to sync from multiple directories? In your sync script, you can specify multiple folders, each of which must contain a `data.json` file with your directory sync settings.

You can then specify each directory to sync by performing multiple `bwdc sync` operations, for example:

Bash

```
# Linux

BITWARDENCLI_CONNECTOR_APPDATA_DIR="./instance-1" bwdc sync
BITWARDENCLI_CONNECTOR_APPDATA_DIR="./instance-2" bwdc sync

# Windows

set BITWARDENCLI_CONNECTOR_APPDATA_DIR=./instance-1
bwdc sync
set BITWARDENCLI_CONNECTOR_APPDATA_DIR=./instance-2
bwdc sync
```

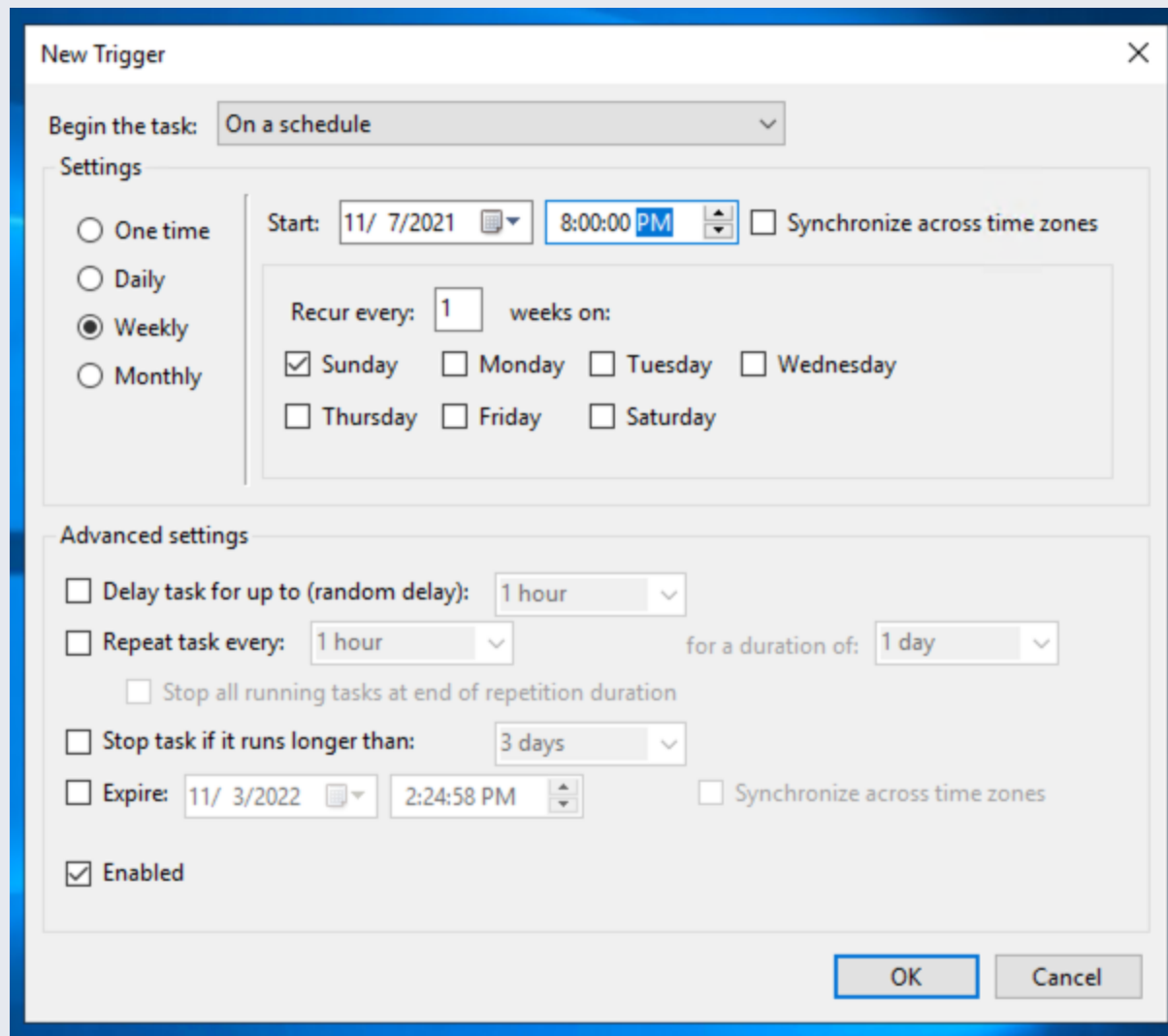
タスクを作成する

専用の **bwdc** ユーザーとして :

1. タスクスケジューラを開き、アクションメニューから**タスクの作成**を選択します。
2. 次のセキュリティオプションを使用してタスクを設定します:
 - 作成された **bwdc** ユーザーを使用するようにタスクを設定します。
 - タスクを**ユーザーがログインしているかどうかに関係なく実行する**ように設定します。
3. **トリガー**タブを選択し、**新規...**ボタンを選択して、ディレクトリ同期のニーズに合ったトリガーを作成します。

Tip

For example, you could create a weekly trigger that runs at 8:00 PM every Sunday or every week:



Using Task Scheduler

4. アクションタブを選択し、新規...ボタンを選択して、作成された同期スクリプトを実行するアクションを作成します。
5. スケジュールされたタスクの作成を完了するには、OKを選択してください。